

キウイフルーツ新品種 ‘片浦イエロー’ について

農業技術センターでは、果肉色が黄色で年内から食べられるキウイフルーツの新品種 ‘片浦イエロー’ を育成しました。

育成経過

神奈川県では県西部を中心にキウイフルーツの栽培が行われていますが、栽培されている品種は、貯蔵性・追熟の均一性に優れる ‘ヘイワード’ 種がほとんどです。

しかし、消費者の嗜好の多様化の観点から ‘ヘイワード’ 種以外の特色のある品種の導入が望まれており、神奈川県らしい直売向けキウイフルーツの新品種育成に取り組みました。

そこで、平成6年に中国系キウイフルーツ品種 ‘アップル’ 種を母親として交配育種を始め、その結果、平成13年に果肉が黄色で収穫してから食べられるまでの時期が早い特長をもった ‘片浦イエロー’ を選抜し、平成20年に品種登録(第16475号)されました。

特性

- 果肉色は黄色であざやか。
- 果実は重さ100g程度で、 ‘ヘイワード’ 種よりやや小さく、果形は丸みを帯びており、果実表面の毛の密度は少なくつるつるしている。
- 着花性に優れており、結実量も多い。
- ‘ヘイワード’ 種より酸が少なく、口当たりが良い。



図1 ‘片浦イエロー’ の着果状況



図2 ‘ヘイワード’ (左) ‘片浦イエロー’ (右)